

本別町地域公共交通会議 会議要旨

○開催日時 平成27年6月25日(木) 午後2時～午後2時40分

○会場 本別町体育館研修室

- <出席者>
- ・帯広運輸支局首席運輸企画専門官 頼本 英一
 - ・帯広運輸支局運輸企画専門官 鈴木まなみ
 - ・十勝総合振興局地域振興部地域政策課主査 錦見 剛
 - ・十勝地区ハイヤー協会常務理事 塚本 俊二
 - ・十勝バス株式会社旅客事業本部長 長沢 敏彦
 - ・十勝地区バス協会事務局 山本 康友
 - ・本別ハイヤー有限会社専務取締役 白木 智康
 - ・毎日交通株式会社代表取締役 千葉 元逸
 - ・本別町自治会連合会会長 三枝 金作
 - ・本別町 高橋町長、砂原副町長、村本健康管理センター事務長
佐々木教育次長、高橋企画振興課長

(事務局) 小川課長補佐、多田副主査

○会議事項

- 1 開 会
- 2 挨 拶
- 3 議 題

(1) 太陽の丘循環バス運行経路の一部変更等について

(2) 平成28年度地域内フィーダー系統確保維持計画(案)について

○会議の経過 別紙のとおり

- 会議結果
- (1) 内容原案のとおり了承。
 - (2) 内容原案のとおり了承。

別紙

【会議の経過】

1. 開会 高橋企画振興課長

2. 会長挨拶

本日は、お忙しいところ、お集まりいただき、ありがとうございます。前回、3月19日に浦幌町との合同開催ということで、お集まりいただき、「本別・浦幌生活維持路線バス」の運行経路の変更等について協議をいただきました。

本日の議題である太陽の丘循環バスについては、これまで利用の声を聞きながら、様々な見直しを行い、運行の効率化や利用性の向上に努めてきたところであります。

今回は、太陽の丘循環バスの更なる利用性の向上を図るべく運行経路の一部変更と、国土交通省の地域公共交通確保維持改善事業の平成28年度補助申請に必要な「地域内フィーダー系統確保維持計画」について提案させていただきます。

お集まりの皆さまには、当事業に対し、これまでもご理解またご指導等いただいているところであるが、本日の協議もよろしく申し上げます。

3. 議題

(1) 太陽の丘循環バス運行経路の一部変更等について [資料1]

<川本次長より説明>

今回の運行経路の一部変更については、本町の南地区である東町地区への経路延長と伴いバス停留所を同地区に2箇所増設するものであります。

今回変更となる路線については、現在6つある運行系統のうち、「南回り」「近道便」「南大回り」「北大回り」の4系統がそれぞれ現在のキロ程より1.8キロ増えることになり、増設する停留所は、この間の地域からのご要望や本町の観光資源となっている本別公園への移動の利用等も想定し、「本別公園」と「静山キャンプ場」の2箇所であります。

また、現在運行している系統ごと便数についても、この間の移動形態や町民からのご意見を踏まえ見直す予定でありまして、現在それぞれ3便運行している「南回り」「北回り」をそれぞれ2便とし、減便する午後の便を近道便へ移行させます。また、現在2便運行の直行便のうち12時台の便を近道便での運行に変更し、それぞれ、病院から自宅へ、市街地から自宅へ帰宅するニーズにこたえる変更内容となっております。

この近道便については、これまで、町内全エリアを1台で運行する形態としておりましたが、今回の見直しにより、一部を南エリア、北エリアそれぞれで同時間帯に運行する形態とし、それぞれの運行時間は配布の時刻表(案)のとおりとなっております。

変更の実施時期は本年10月1日を予定してまいりまして、運行予定ダイヤについては、今後、利用者等の最終的なご確認をいただき設定してまいりたいと考えておりますので、現時点においては、予定ということでご理解いただきたいと思います。

(2) 平成28年度地域内フィーダー系統確保維持計画（案）について [資料2]

<小川課長補佐より説明>

<地域内フィーダー系統確保維持計画（案）説明の前に、参考資料の太陽の丘循環バス運行見直し経過と利用実績について事務局より説明>

これまでの運行見直し等の経過であります。資料にありますとおり、平成22年度の調査事業以降、利用者の利用性の向上を図るべく見直しをすすめ、平成25年9月にまち中に人を集めるべく運行ルートや、南北各便すべてを逆回りにし、大回り便を新設するなど、大幅な運行体系の見直しを行いました。

また、翌年の4月よりダイヤ改正と直行便を1便増便し、現在の運行形態となったところであります。

利用実績については、事業期間ベースで、平成24年度は年間18,145人、平成25年度14,935人、平成26年度13,451人と年々減少してきており、主に国保病院患者数の減少や市街地南地区に内科医院の開業（H24秋）したことなどにより社会環境・情勢の変化による影響と考えているところであります。

しかしながら、最近の状況はどうかということではありますが、各月の状況については、グラフに記載しておりますが、平成26年10月以降は、前年同月比において200人以上の利用増となっております。

平成27年度の利用者見込みにおいては、年間17,738人（72.4人/日）となっており、平成24年度実績に近い利用者が見込まれるところであります。利用者増の要因については、これまでの利用性の向上を図るルートやダイヤが定着してきたこと、循環バスの認知度の高まりと通院以外の利用者が増加してきたことなどが要因であると考えております。

こういった状況も踏まえ、平成28年度事業における計画を立てさせていただくわけですが、先ほどご確認いただきました運行ルートにより、計画立てをさせていただきました。

<平成28年度地域内フィーダー系統確保維持計画（案）について事務局より説明>

本計画につきましては、地域協議会等の協議を経て策定され、本制度活用のための要件となるものであり、今回提案する計画案については、平成28年度（事業年度：平成27年10月1日～平成28年9月30日）以降の運行にかかる補助申請に必要な計画となるものであり、当町では、今回で5年次目となります。

計画における事業の定量的な目標としては、今回利用者が増加してきているという状況ではありますが、昨年に引き続き利用者数のみの具体の目標値設定とし、前年度（見込み）比較で同水準の目標値としています。

<以降、計画（案）に沿って説明>

5. その他

○頼本委員（帯広運輸支局）より

事務局より説明があったとおり、本年度の要綱改正により市町村における国庫補助上限額算定にかかる見直しが行われている。国としては、昨年度は当初300億、補正追加の60億を合わせると360億の予算を確保してきたところであるが、本事業も開始から5年が経過し、全国的に活用自治体が増加してきている状況もあり、本年度、上限額が下げられたところ。

平成28年度予算については、財務省との予算協議はこれからの予定であるが、地域の公共交通を確保・維持していく点からも、予算確保に向けしっかりと要望や対応をしてまいりたい。

6. 閉会